

# 小田原市スーパーシティ構想（概要）

～ 縁ある人すべてを守り、未来を輝かせるクリーン&スマート城下町“ODAWARA” ～

## 小田原市の概要

小田原市は、人口約189,000人。神奈川県の南西部に位置し、北西部を丹沢・箱根山系、南部を相模湾に囲まれた、県西地域の中心都市として知られています。



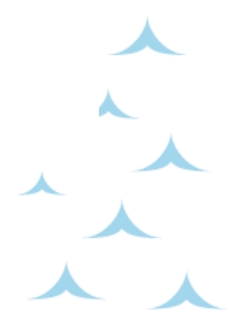
### 面積

113.60km<sup>2</sup>

小田原市役所

北緯 35° 15' 53"

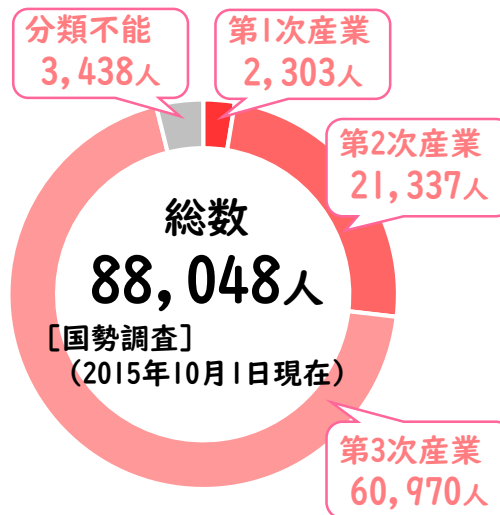
東経 139° 9' 08"



### 人口



### 就業者数



### 事業所

事業所数 7,763  
従業員数 82,174人



### 製造品出荷額等

576,033  
百万円

出荷額  
第1位の産業  
情報機器



### 年間商品販売額

卸売業 172,330  
小売業 227,951  
百万円

「平成26年度経済センサス」

## 生命のリスク

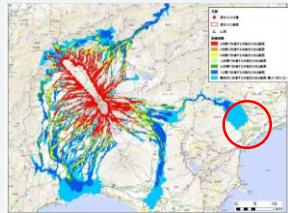
□自然に恵まれた地形ゆえの  
**地震・火山・津波・水害リスク**

- 巨大地震発生率（今後30年）  
都心南部直下型地震及び南海トラフ巨大地震

発生確率 70%  
想定マグニチュード 7.3~9.0

<出典> 神奈川県地域防災計画

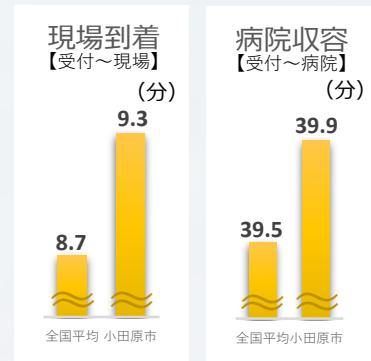
- 富士山火山災害  
市の一部が「火山災害警戒地域」に



<出典> 富士山火山防災協議会  
大規模噴火時シミュレーション

□少子高齢化等による  
**医療福祉の負担増**

- 時間を要する救急搬送



<出典> 平成30年小田原市消防本部  
救急集計データ

## 生活のリスク

□人口減少等による  
**社会インフラの弱体化**

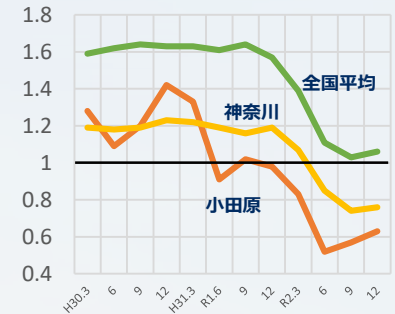
- 市内バス路線数の減少



<出典> 酒匂川流域バスマップより  
(小田原を通る路線数をカウント)

□新型コロナウイルスによる  
**経済への悪影響**

- 雇用の不安定化  
(有効求人倍率の推移)



観光客の激減により、  
老舗かまぼこ店の倒産など、  
市の経済の大きなウェイトを占める  
観光業に大きな打撃

様々なリスクをきっかけとした**負のスパイラル**が起きつつある

公共サービスの利便性低下や  
市民所得の減少による  
**生活の質の低下**

都市の魅力低下による  
**人口の流出、少子高齢化**

**負のスパイラル**

歳入減少による**市の財政悪化**や  
景気低迷による**雇用情勢の悪化**

人口減少や産業空洞化による  
**地域経済の縮小**

# 一方で、小田原の持つポテンシャルが希望の芽を育てる・・・

## □地理的・歴史的資源に 恵まれた日本有数の観光地



古くからの歴史を有する  
城下町・宿場町



近代史を代表する政財  
界人や文人墨客が集い、  
交流した魅力ある街並み



都心からの程よい距離と  
抜群の交通アクセス網



<東海道新幹線・JR東海道本線  
・小田急小田原線・充実した道路網>

## □これまでの取り組み

### エネルギー政策先進都市

- ・地域マイクログリッド構築事業  
<経済産業省連携>
- ・炭素循環モデル構築実証事業
- ・EV活用地域交通モデル事業  
<環境省連携>

### 海外都市連携

- ・30年にわたる青少年相互交流  
<ノーザンビーチーズ市連携>
- ・ラグビーWC/オリンピックの  
トレーニング拠点の提供  
<オーストラリア代表連携>

### 公民連携

- 市内の個人・団体との連携蓄積  
と市内外の企業との協力関係  
の構築

## □最近の新しい動き



日本一スマート化された  
新市立病院の整備

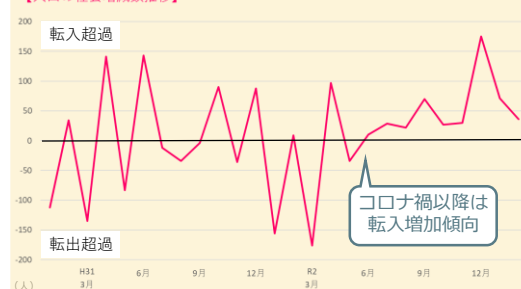


関東学院大学・日本先端  
大学（仮称）のキャンパスを  
活用した新技術の開発



リモートワークが定着する中で、  
居住環境と都市へのアクセスを  
両立できる小田原への移住増

【人口の社会増減数推移】



小田原が有するポテンシャルに、デジタル技術とデータ活用をスーパーシティ構想に基づき総合的かつ計画的に組み合わせることで、縁ある人すべてを守り、未来を輝かせる「クリーン&スマート城下町“ODAWARA”」を実現します。

1

いのちと健康を  
**守る**



医療・防災・福祉

2

暮らしを  
**守る**



交通・観光・海外展開

3

未来が  
**輝く**



環境・教育・技術開発

**世界が憧れるまち”ODAWARA”へ**

# 小田原市の未来イメージ クリーン&スマート城下町 “ODAWARA”

## 【日本の小田原・世界の小田原】 誰もが楽しめる国際観光都市

- ・地域資源と新技術をマッチさせた美食のまち
- ・訪れやすく、動きやすい観光地を支えるEV
- ・複合現実も活用した未来型観光を提供



## 【日本一の環境都市】は 再生可能エネルギーが動かす

- ・耕作放棄地等を活用した発電・蓄電施設群
- ・EVカーシェアリングやオンデマンドバスで脱炭素社会に向かって疾走



## 【日本一スマート化され た市立病院】を中核 とした安心のまち

- ・顔認証やマイナンバーカードでスマート化された新市立病院と救急搬送
- ・衛星やドローンによる災害状況の把握とEV等によるライフラインの確保



## 【小田原から世界へ】 企業や市民が海外で活躍

- ・海外都市との信頼関係を基に、小田原の最先端のデジタル技術やまちづくりを海外に売り込む
- ・バーチャル交流で市民交流を強化



## 【小田原で育てよう】と思える 日本最先端の教育環境

- ・中学校での「デジタル(仮称)」科目創設
- ・教育現場に実務に通じたデジタル人材を配置
- ・オンラインを活用した充実の国際教育



## 【小田原は広大なラボ】技術開発 から実証実験まで一貫した環境

- ・意欲ある企業・研究者が関東学院大学、日本先端大学(仮称)で新技術を開発
- ・開発された技術の実証実験を市が支援

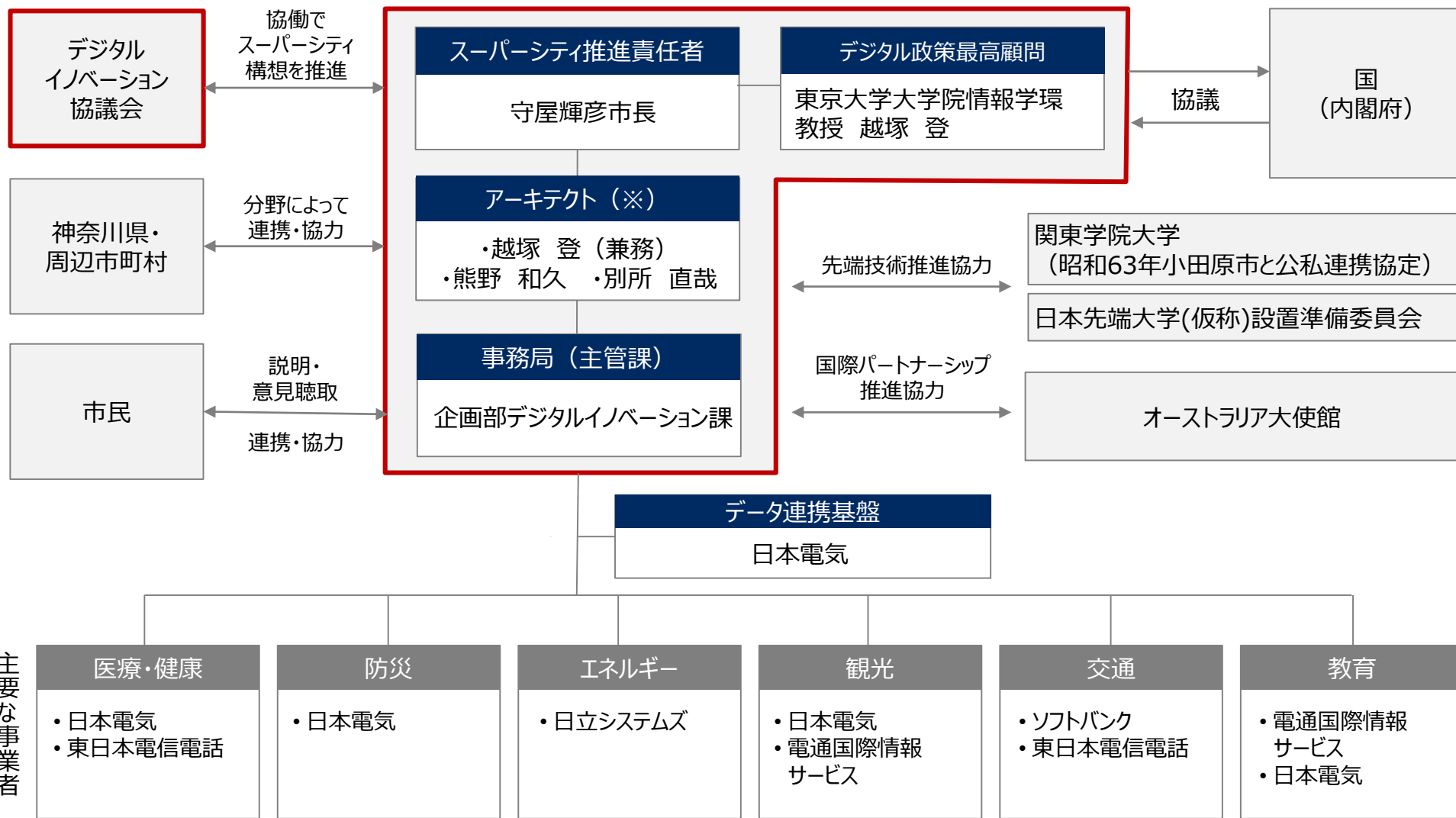


# 全体スケジュール

		立上げ・パイロットフェーズ ~2022	事業展開フェーズ ~2025	事業拡大フェーズ ~2030
実現している姿	小田原市	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安定的な事業運営を支える事業スキームの立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業スキームを中心として、人・事業者・金の流れが確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業スキームによる持続的かつ自律的な運営</li> </ul>
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス提供体制の立ち上げ</li> <li>■ モデルエリアでのサービスの順次提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個別サービスの収益化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業収益の安定化</li> <li>■ サービス参加事業者の拡大</li> </ul>
	市民等利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スーパーシティ構想への理解の深化</li> <li>■ サービス利用意向の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 先端的サービス活用によるベネフィットの享受</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ワークショップ・人材育成への参加などを通じ、スーパーシティ構想拡大への参加</li> </ul>
推進計画	先端的サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本構想策定</li> <li>• 規制改革(特例措置)の求め</li> <li>• 地場企業・店舗の巻き込み</li> <li>• サービス実証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• モデルエリアでの提供サービスの事業化</li> <li>• サービス利用者の声を反映したサービス改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サービス対象エリアの拡大</li> <li>• サービス提携事業者数の拡大</li> </ul>
	住民等の意向確認	意見交換会（※事業の進捗状況に応じて適宜実施）		
	データ連携基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データ連携基盤整備事業に関わる区域計画の策定</li> <li>• データ連携基盤構築および社会実装前の実証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データ連携基盤の運用（社会実装）</li> </ul>	

# スーパーシティ構想の推進体制①

## 小田原市



※ 今後事業の進展に伴い追加していく

(※) 越塚 登 東京大学大学院情報学環 教授  
 熊野 和久 ダッソー・システムズ スマートシティ推進担当部長  
 別所 直哉 紀尾井町戦略研究所代表取締役社長

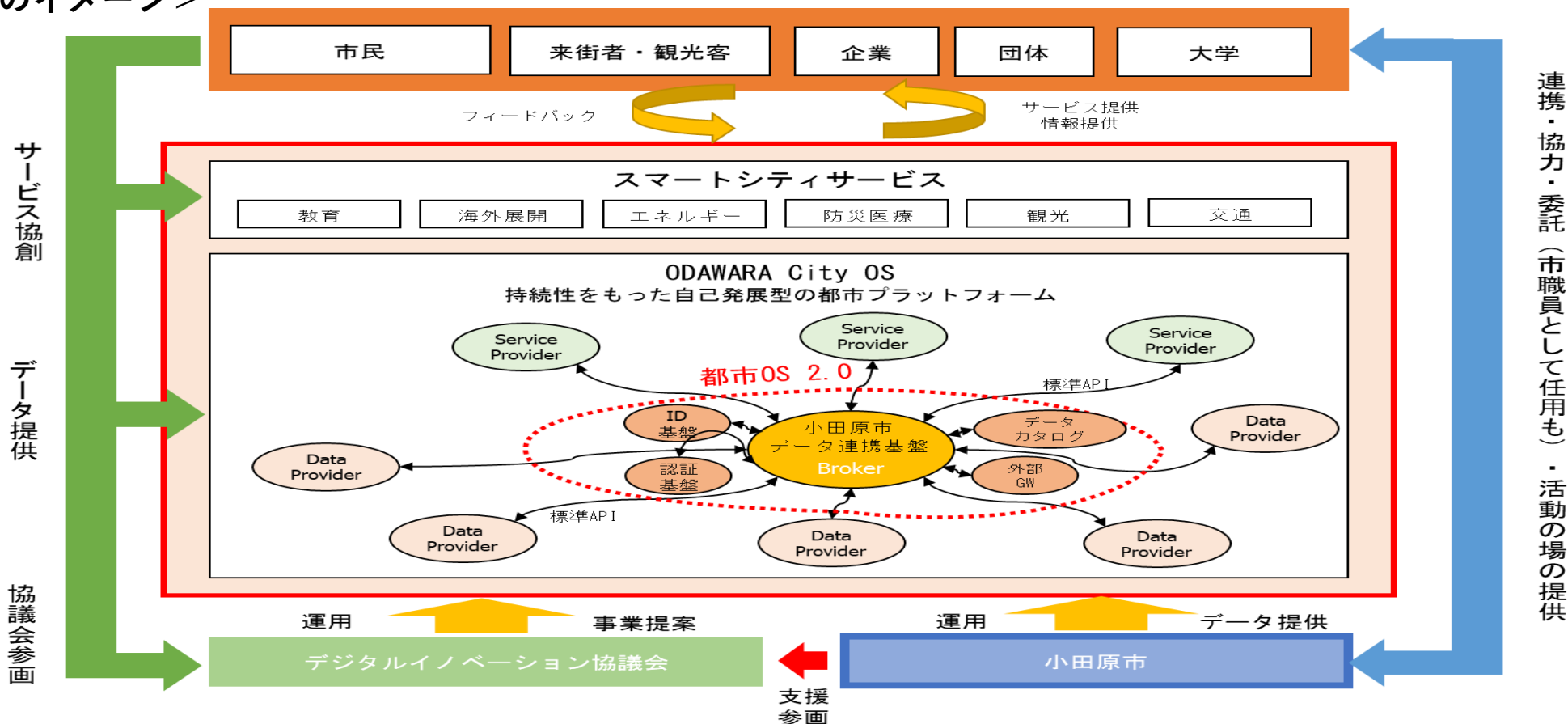
## スーパーシティ構想の推進体制②

データ連携基盤等構築後は、アーキテクト（越塚東京大学大学院教授）の指導を受けながら、仕様の標準化と個人情報保護に特に留意した上で、**意欲と能力のある企業・団体・個人が市と連携（シビックテックの支援等）し、機能・データの両面で更なる充実を図る。**

こうした取り組みを進めることで、**利便性（利用者目線での運用・改修）と経済性（運用経費の合理化）、そして持続性（皆で小田原のスーパーシティを支える）を併せ持ち、中小規模の市町村にとって最良のモデルとなるデータ連携基盤の運用体制を確保する。**

### <運用のイメージ>

【小田原スーパーシティエコシステム】



市のリードによる推進から、産官学民が連携した持続性のある推進体制（小田原スーパーシティエコシステム）へシフト